

三鷹CATVインターネットとその展開

三鷹市企画部情報化対策室

室長 丹生 五郎

1 これまでの取組み

三鷹市では、昭和59年9月から日本電信電話公社のINS実験が行われた。

この実験は、昭和62年3月までの2年半で終了し、実験施設も撤去された。

三鷹市では、キャプテンシステムについては、実験終了後も、行政情報の提供手段として、継続して実施している。

平成元年には、全国の自治体に先駆け、電話による情報案内システム＝くらしのテレフォンガイドみたかを開発した。

また、平成8年3月に郵政省のテレトピア構想モデル都市の指定を受け、地域の情報化の推進に努めてきている。

2 CATVの開局とインターネット

(1) CATVの開局

INS実験後には、1地方都市でありながら、県庁所在地と同様に、NTTのデジタル通信網（ISDN）の導入が行われ、情報通信基盤の整備が進められた。

このように、通信系の情報基盤の整備は、比較的早く行われてきたが、放送系のサービスであるCATVについては、地理的環境、社会的環境等導入しやすい環境にあるにも関わらず、その導入が遅れていた。

平成5年ごろから、民間ベースでCATV設立の動きが起き、民主導で準備が進められてきた。導入が遅れてきたことが、幸いしてか、三鷹市のCATVについては、最新技術を取り込んだもので導入がされ、平成8年7月に放送サービスを開始した。

また、平成8年10月から、第1種通信事業者として、日本で初めてのCATVによるインターネット接続サービスを開始し、低廉で高速なインターネット接続環境が整った。

(2) インターネットの普及

平成7年末、マイクロソフト社のウインドウズ95が発売されたあたりから、インターネットへの関心が高まり、爆発的な勢いでインターネット加入者が増えていった。

3 インターネットの活用と今後の展開

三鷹市では、高環境・高福祉のまちづくりを目指して、基本計画を策定し、それに基づいた計画行政を推進している。

地域の情報化の計画についても、基本計画を受けて、現在策定中である。

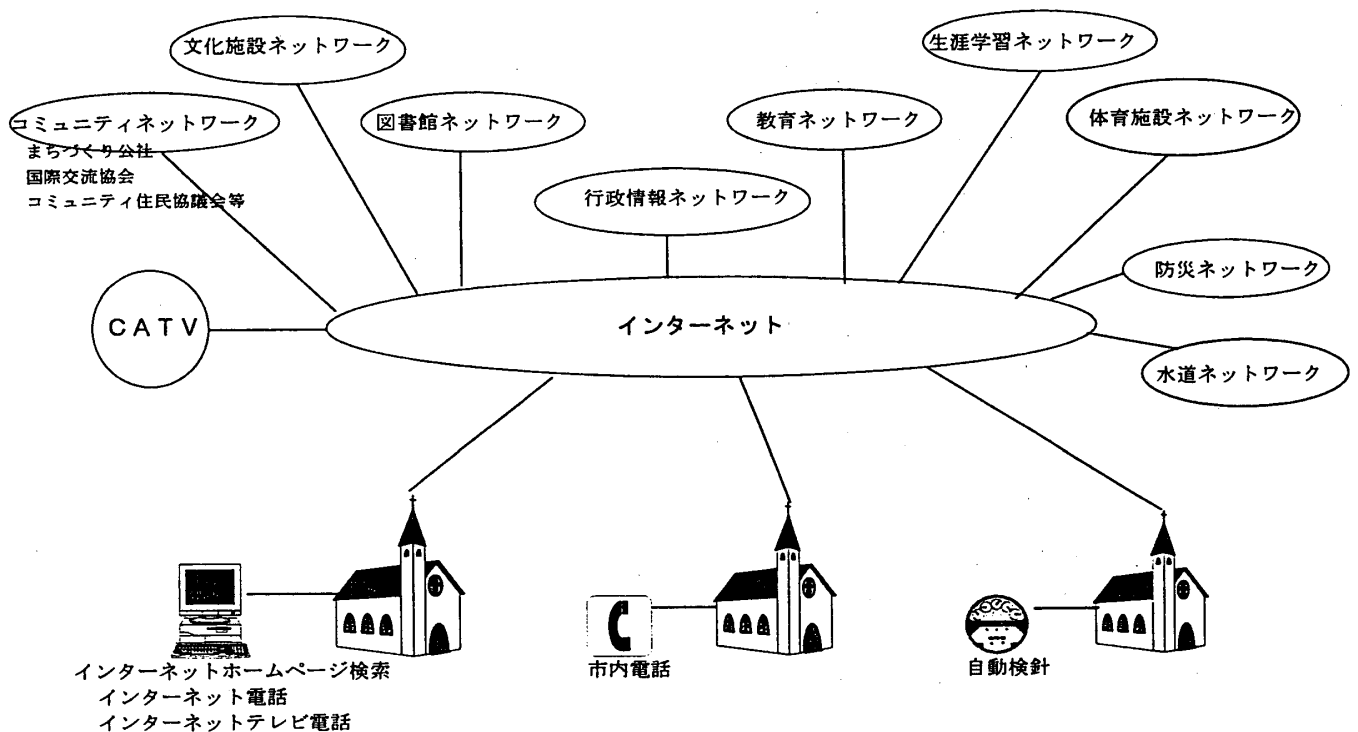
この地域情報化計画の大きな課題として、情報都市みたかの実現をめざし「SOHO-CITY三鷹」を展開し、市民参加と新しいコミュニティの創造・育成のための情報ネッ

トワーク構想が検討されている。

この情報ネットワーク構想では、インターネットを活用し、「いつでも、だれでも、どこでも」利用できる情報ネットワークを構築していくこととしている。

すべての小中学校をインターネットでネットワーク化しホームページによる学校紹介、学校間交流や遠隔授業を行う教育ネットワーク、三鷹市ホームページによる行政情報の提供や市民参加、生涯学習の情報提供や施設予約・講座予約を家庭からでも行える生涯学習ネットワーク、インターネットからでもアクセスできる図書館ネットワーク等々、様々なサブシステムをインターネットにより結合し、サービス、情報提供をインターネット上で展開することにより従来のようなOSや機械に制約されない「三鷹市情報ネットワーク」を構築し、市民サービスの向上と情報活力のまちづくりを目指している。

三鷹市情報ネットワークのイメージ



4 今後の課題

このように、情報ネットワークの基幹として、CATVの情報通信網の活用とインターネットの利用により高速で、広範な情報システムの構築を目指しているが、一方、以下のような問題点の解消に向けた努力も必要となる。

(1) 情報システムの安全性の確保

ネットワークの汎用性と個人情報の保護

(2) 情報提供システムの高度利用